

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2016 年 3 月

「もうひとりの御使」 「果敢な生涯」 「契約の条件」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「もうひとりの御使」

4

聖書の教え

朝のマナ

「果敢な生涯」

9

今日のわたしの生涯

現代の真理

「契約の条件」

41

七つの封印と生ける神の印

力を得るための食事

「グラノラバー」

48

お話コーナー

「宮で捧げられるイエスさま(上)」

50

イエスの物語

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-40-1045

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2016年2月29日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 8, 52, Joe Maniscalco

on back cover.

Printed in Japan

確実にそのまま受け入れるに足る言葉

許しを与える神の愛を受け、また、その精神をあらわすために欠くことのできない一つのことは、神がわたしたちに対していただいておりますの愛を知り、かつ信じることである（ヨハネ第一 4:16 参照）。わたしたちがその愛を認めないように、サタンはあらゆる欺きをもって働いている。彼は、あやまちや罪があまりに大きいので、主はわたしたちの祈りをかえりみてくださらず、わたしたちを祝福し、救ってはくださらないと思わせようとする。わたしたち自身のうちには、欠点以外何も見られず、神にとって魅力のあるものは何も見られない。サタンは、むだだ、品性の欠陥を改めることはできないとわたしたちに告げる。わたしたちが神のもとに来ようとする時、敵は、祈ってもむだだ、あなたはあの悪事をしたではないか、あなたは神に対して罪を犯し、自己の良心にそむいたではないかとささやくであろう。しかしわたしたちは、「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」と敵に告げることができる（ヨハネ第一 1:7）。わたしたちが罪を犯した、祈ることができなと感じる時こそ、まさに祈るべき時なのである。恥じ、誇りをいたく傷つけられているかも知れないが、祈り、かつ信じなければならない。「『キリスト・イエスは、罪人を救うためにこの世にきて下さった』という言葉は確実に、そのまま受け入れるに足るものである。わたしは、その罪人のかしらなのである」（テモテ第一一五）。神との和解すなわち許しがわたしたちに与えられるのは、わたしたちのわざに対する報いとしてではない。それは、罪深い人間の功績のために与えられるのではなく、わたしたちに対する賜物であって、それが与えられる根拠は、キリストのしみのない義のうちにあるのである。

わたしたちは罪の言いわけをして自分の罪を軽くしようとしてはならない。わたしたちは、罪についての神の評価を受け入れなければならない。それは実に重いものである。カルバリーのみが罪のいかにおそるべきものかを明らかにする。もしわたしたちが、自分の罪を負わなければならないのであれば、それはわたしたちを打ち砕くことであろう。しかし、罪なきかたがわたしたちに代わってくださった。不義を受けるべきかたではないのに、主はわたしたちの不義を負われた。「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」（ヨハネ第一 1:9）。なんと輝かしい真理であろう。神はご自身の律法に対して義でありながら、なおイエスを信じるすべての者を義とされるおかたなのである。「だれかあなたのように不義をゆるし、その嗣業の残れる者のために、とがを見過ごされる神があろうか。神はいつくしみを喜ばれるので、その怒りをながく保たず」（ミカ書 7:18）。（祝福の山 145,146）

12章 もうひとりの御使

もうひとりの御使は(黙示録 18:1)、獣とその像に対する警告の宣布に力を増し加えるために、第三天使に合流します。第二天使のメッセージが繰り返され、それと共に 1844 年の第二天使の働きの開始以来キリスト諸教会に入り込んだ更なる墮落について述べられています(黙示録 18:2, 3)。この天使の働きは、地を神の栄光で明るくする 1888 年の「キリストわれらの義」のメッセージの宣布をもって始まりました(出エジプト記 33:18, 19; ハガイ 2:9, 7; コロサイ 1:27; ハバクク 2:14)。

人の要求が公に神の戒めより高くおかれたとき、このメッセージを拒否することによって、再臨信徒たちの間で公然たる背教へ導かれました。この「もうひとり」の御使の働きは、継続的に提示されていたラオデキヤへのメッセージと共に、満ちみちた「後の雨」の注ぎと、大声でなす最後の警告の宣布(「大いなる叫び」)へ導きます。これによって神の民は人間の恩恵期間が閉じる前の最後のテストに、またヤコブの悩みの間耐える準備ができるのです(黙示録 3:14-20; ダニエル 12:1; エレミヤ 23:6; ホセア 6:1-3; ヨエル 2:23)。

第三天使のメッセージを強めるために「もうひとりの御使」が来る必要が生じたのは、はじめにそれを委ねられた民の手中でその力が急速に失われていったからでした(ハバクク 2:14; イザヤ 60:1, 2)。

「わたしは民のために働きがなされなければならないことを知っている。さもなければ、多くの者がその栄光によって全地を明るくするために天から下ってくる御使の光を受ける準備ができないことであろう」(牧師への証 468, 469)。

「神が自分たちに与えて下さったすべての証拠を無視することができ、祝福をのろいに変える人々は、自分自身の魂の安全のために震えおののくべきである。彼らが悔い改めなければ、彼らの燭台は取り除かれることになる。主は侮辱されてきた。真理の旗印、すなわち第一、第二、第三天使のメッセージの旗印はちりの中に引きずられたままにされている」(セクレット・メッセージ 2 巻 394)。

であるから、「もうひとりの力の強い天使が、地上へくだって第三天使と声をあわせ、そのメッセージに力と勢いを与えるように、任務を受けてい……た。この天使の働きは、最後の大きな働きにおいて第三天使のメッセージが大きな叫びとなってもりあがるちょうどその時に始められる」(初代文集 448)。

「[黙示録 18:1, 2, 4 引用]。この聖句は、黙示録 14 章(8 節)の第二天使

によってなされたバビロンは倒れたという宣言が、くり返して行なわれる時を指し示すものであり、それとともに、このメッセージが1844年の夏最初に宣言されて以来、バビロンを構成する諸団体に入り込んできた腐敗について述べている。……神は、まだバビロンの中にご自分の民を持っておられる。そして、神の刑罰が下る前に、これらの忠実な人々を呼び出して、彼らがその罪にあずからず、『その災害に巻き込まれないように』しなければならないのである。そこで、この天使一天から下って来、栄光をもって地を照らし、力強い声でバビロンの罪を知らせる天使一によって象徴されているところの運動が起こる」（各時代の大争闘下巻 371, 372）

「第三天使のメッセージは強められ、確かにされなければならない。黙示録18章は、真理を控えめにではなく、大胆さと力をもって宣布する重要性を明らかにしている」（伝道 230）。

「サタンは民としてわたしたちの間に、わたしたちを戒め、譴責し、自分たちの過ちを捨てるように訓告するものが何ももたらされないように、出きる限りの手を尽くしてきた。しかし、神の契約の箱を担う民がいる。……真理は彼らの手で弱くなったり、力を失ったりすることがない。彼らは民にそのとがを、ヤコブの家にその罪を示すのである」（牧師への証 411）。

後の雨のための準備

「ラオデキヤ人への証は現代の神の民に当てはまることを示されてきた。そしてもっと大きな働きをなし遂げてこなかった理由は、彼らの心の頑なさのゆえである。しかし、神はメッセージがその働きをなすための時間をお与えになった。心が長い間イエスを締め出してきた罪から清められなければならない。この恐るべきメッセージはその働きをなすのである。それがはじめ提示されたとき、それは心の厳密な吟味へと導いた。罪を告白し、神の民は至るところで心がかき立てられた。ほとんどすべての人が、このメッセージは第三天使の大いなる叫びのうちに終わるものと信じた。しかし、彼らが力強い働きが短期間に成し遂げられるのを見ることができなかつたとき、多くの人はメッセージの効果を失った。わたしはこのメッセージがその働きを数か月間の短い間に成し遂げるのではないことを見た。それは神の民を目覚めさせ、自分たちの背信を発見させ、熱心な悔い改めへと導くように意図されている。それはこうして彼らがイエスのご臨在をもって恩寵を受け、第三天使の大いなる叫びにふさわしいものとされるためである。このメッセージが心に効果を及ぼすと、それは神のみ前における深い謙遜へと導く。天使たちは信じない心が真理のために準備できるよう至る方向へとつかわされた。神のみ事業がおこり、神の民は自分たちの立場をわきまえた。もし真の証人の勧告に十分に注意を払ってきたならば、神はご自分の民のためにもっと大いな

る力のうちに働いてくださったのである。それでもなお、メッセージが与えられて以来なされてきた努力は神に祝福されてきた。そして多くの魂が誤謬と闇から導き出されて、真理のうちに喜んできたのである」(教会への証 1 巻 186)

大いなる叫び

第三天使の大いなる叫びは、黙示録 18 章の天使が 1888 年に来たことによって始まりました。その頂点は後の雨のうちに聖霊が満ちみちて注がれるまで見られることはありません(黙示録 18:1-4)。

「サタンが自分の偽りの不思議をもってはたらいている一方で、黙示録にあらかじめ述べられている時、すなわち地をその栄光で明るくする力強い御使がバビロンが倒れたことを宣布し、神の民に彼女を捨てるよう呼び求める時は来た」(セリフ・メッセージ 3 巻 406, 407)

「テストの時がまさにわたしたちに迫っている。なぜなら、第三天使の大いなる叫びは、罪を許す贖い主なるキリストの義の啓示のうちにすでに始まったからである。これは全地をその栄光で満たす御使の光の始まりである」(同上 1 巻 363)。

「神と共に働く共労者はみな、聖徒たちにかつて伝えられた信仰のために最も熱心に戦う。彼らは現代のメッセージに背を向けることはない。それはすでに地をその栄光で明るくしつつあるのである。……わたしたちは墮落した世に対する最後の警告をもって中空を飛んでいるものとして表されている〔三人の〕御使たちのメッセージを鳴り響かせるべきである。……〔黙示録 18:1-5 引用〕。こうして第二天使のメッセージの要旨が地をその栄光で明るくするもうひとりの御使によって世に再び与えられるのである」(同上 2 巻 114-116)。

「福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨(前の雨)となって成就した預言は、その終局において、春の雨(後の雨)となって再び成就するのである。これが、使徒ペテロが待望した『慰め〔原文では refreshing (活気づけ、回復の意)〕の時』である。彼は次のように言った。『だから、〔調査審判の間に〕自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、……イエスを、神がつかわして下さるためである』(使徒行伝 3:19, 20)。

神のしもべたちは、きよい献身の喜びに顔を輝かせ、天からの使命を伝えるために、ここかしこ奔走する。全世界の幾千の声によって、警告が発せられる。奇跡が行なわれ、病人はいやされ、しるしと不思議が信じる者に伴う。サタンもまた、偽りの不思議を行ない、人々の前で天から火を降らすことさえる(黙示録 13:13 参照)。こうして、地上の住民は、立場を明らかにしなければならなくなる」

(各時代の犬争闘〔1888 年版〕日本文下巻 382, 383 参照)

天からの声

三重のメッセージの宣布に関連して、もう一つの天からの声が〔聖霊の力の下で〕力強い御使によって表されている運動を通して聞かれます。恩恵期間が閉じる前に、まだバビロンと名目的再臨信徒たちの中にいる忠実な神の民に神の災いが彼女に注がれる前に彼女から出るようにと、彼は最後の招きをなすのです(黙示録 18:4, 5)。

「黙示録 18 章にあらかじめ述べられているように、第三天使のメッセージは、獣とその像に対する最終的な警告をなす人々によって大いなる力をもって宣布されることになる〔黙示録 18:1-6 引用〕。

この神から与えられたメッセージは第三天使の大いなる叫びのうちに響きわたるべきである」(教会への証 8 巻 118)。

「黙示録 18 章は、教会が、黙示録 14:6 ～ 12 の三重のメッセージを拒否した結果、第二天使のメッセージが預言した状態に完全に陥り、そして、まだバビロンにいる神の民が、その中から出るようにと求められる時を示している。これは、世界に発せられる最後のメッセージである。そしてそれは、その働きを成し遂げる。『真理を信じないで不義を喜んでいた』人々は、偽りを信じ、迷わず力に陥るままにされる(テサロニケ第二 2:12)。そのとき真理の光は、それを受けようと心を開くすべての人の上に輝き、バビロンに残っている主の子供たちはみな、『わたしの民よ。彼女から離れ去』れという招きの声に耳を傾けるのである(黙示録 18:4)」(各時代の犬争闘下巻 93)。

「神はまだバビロンの中に民を持っておられる。……〔そして〕これらの忠実な人々は呼び出されなければならない。……であるから天から下ってきて、地をその栄光で明るくし、強い声で力強く叫び、バビロンの罪を告知する御使によって運動が象徴されている。彼のメッセージに関連して、『わたしの民よ。彼女から離れ去』れとの招きが聞かれる。これらの警告が第三天使のメッセージに合流するとき、それは大いなる叫びへと盛り上がるのである」(サインズ・オブ・タイムズ 4 巻 422)

「神は名目的再臨信徒たちと、墮落した教会の中に、心の正しい人々を持っておられる……そして、牧師や信者たちが、災害がくだされる前に、これらの教会から呼び出されて、喜んで真理を受け入れる。……サタンは、この事を知っている。第三天使の大いなる叫びがあがる前に、サタンは、これらの宗教団体に、興奮を起こさせ、真理を拒んだ人々に、神が彼らと共におられると思わせるのである。サタンは、心の正しい人々を欺いて、神がなお教会のために働いておられると彼らに思わせたいと願っている。しかし、光が輝き出る。そして、心の正しい人

はみな、墮落した諸教会を去り、残りの民に加わるのである」(初代文集 424, 425)。

「第三天使のメッセージは地を行き巡り、民を目覚めさせ、そして彼らの注意を神の戒めとイエスの信仰へ引かなければならない。もうひとりの御使が第三天使と声を合わせ、地はその栄光によって明るくされる。光は増し加わり、それは地のすべての国民へと輝きだす。それは燃える光として出ていくのである。それには大いなる力が伴い、その黄金の光線は全地のおもてにいるすべての国語、すべての民族、すべての国民の上に降り注いできた。わたしはあなたにお尋ねする。あなたはこの働きのために準備しているであろうか。あなたは永遠のために築いているであろうか。あなたはこの御使が世に伝えるべきこのメッセージを持っている民を表していることを覚えていなければならない。あなたはその民のうちにいるであろうか」(ビュー・アンド・ワルド 1885 年 8 月 18 日)

「この時代のための命にかかわる最も重要な質問は、『だれが主の側にいるであろうか。だれが世に真理のメッセージを伝えることによって御使と結合するであろうか。だれが全地をその栄光で満たすべき光を受けるであろうか』である」(同上 1889 年 11 月 5 日)

ヤコブの悩みの時のための準備

「教会の体の一員として、最後の争闘の時、すなわち『ヤコブの悩みの時』が近づくにつれ、彼らは成長してキリストに達し、大いにこのお方の御霊にあずかる。第三のメッセージは大いなる叫びへと盛り上がり、大いなる力と栄光が終了の働きに伴い、神の忠実な民はその栄光にあずかるようになる。悩みの時を通過させるために彼らを復活させ、強めるのは後の雨である。彼らの顔は第三天使に伴う光の栄光で輝く」(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 7 巻 984)

「『悩みの時の開始』とここに言われているのは、災害が降り始めるときのことではなくて、キリストがまだ聖所におられて、災害がくだり始める直前の短い期間をさしている。救いの働きが終了しつつあるその時、地上には悩みが起り、諸国民は怒り狂うが、第三天使の働きを妨げないように、まだ抑制されている。その時に、『後の雨』、すなわち、主のみ前から慰めの時がきて、第三天使の大きな声に力をそえる。そして、最後の七つの災害がくだるときに、聖徒たちが立つことができるように準備を与える」(初代文集 173)

今日のわたしの生涯

My Life Today



3月「果敢な生涯」

エステル

「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」。(エステル 4:14)

ユダヤ人が殺されて、その財産を奪い取る日が決定された。王はこの詔が実行されたならば、どんな重大な結果が起こるかを、少しも知らなかった。サタン自身がこの策略の背後で暗躍して、真の神の知識を保っている人々を地上から滅ぼし去ろうとしていたのである。……

しかし敵の策略は、人間の子らを支配しておられる神の力によって打ち破られた。神の摂理のうちに至高者を恐れるユダヤの女性エステルが、メド・パルシャ王国の王妃になっていたのである。モルデカイは彼女の親せきであった。彼らは窮地に追いこまれて、ユダヤ民族のためにクセルクセスに訴えることにした。エステルはとりなす者として、王の面前に危険を冒して出るのであった。モルデカイは、「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」と言った。

エステルが当面した危機は、真剣な努力を急速にする必要があった。しかしエステルもモルデカイとともに、神が彼らのために大いなる働きをして下さるのでなければ、彼ら自身の努力は無益なことを知っていた。そこでエステルは、力の源であられる神と交わる時間をとったのである。エステルはモルデカイに、次のように答えさせた。「あなたは行ってスサにいるすべてのユダヤ人を集め、わたしのために断食してください。三日のあいだ夜も昼も食い飲みしてはなりません。わたしとわたしの侍女たちも同様に断食しましょう。そしてわたしは法律にそむくことですが王のもとへ行きます。わたしがもし死なねばならないのなら、死にます」。(国と指導者下巻 205、206)

イスラエルの歴史の重大な危機に王妃エステルに向かって「あなたがこの国に迎えられたのは、このような時のためでなかったとだれが知りましょう」と言われた言葉が、今日の重大な時にあたって、福音の光に照らされたすべての家庭、すべての学校、すべての親、すべての教師、すべての子供に向かって発せられているのである。(教育 311)

パウロ

「わたしの第一回の弁明の際には、わたしに味方をする者はひとりもなく、みなわたしを捨てて行った。……しかし、わたしが御言を余すところなく宣べ伝えて、すべての異邦人に聞かせるように、主はわたしを助け、力づけて下さった。」(テモテ第二 4:16, 17)

ネロの前に立つパウローそれはなんと対照的なことであろう!……ネロは並ぶところのない権力と偉大さのうちに立っていた。……金銭も、友も、助言もなく、パウロは自分の生命をさばかれるために地下牢から連れてこられたのであった。……

専制君主の表情は、うちに燃え上がる欲情の恥ずべき記録をおびている。囚人の表情は、心にある神と人との平和を物語っている。正反対な教育システムの結果がその日を対照的なものとした。とどまることを知らない自己放縱の生涯と全的な自己犠牲の生涯である。ここに、二つの生涯が代表されていた。すなわち、つかの間の満足のためには、何を犠牲にしても惜しいものはないと考えてすべてをのみ込む利己心と、他人の益のためには、必要であれば命そのものでさえ、捧げる用意ができて自己否定の忍耐である。……

民衆と裁判官たちは……多くの裁判に居合わせ、また多くの犯罪人を観察してきた。しかし、このような聖なる穏やかな表情をしている人を見たことがなかった。……彼の言葉はもつともかたくなな者の心のうちでさえ振動する琴線に触れた。真理は、明白に説得力をもって、誤りをくつがえした。光が後になってその光線に喜んで従うことになる多くの者たちの思いの中を照らした。……彼は自分の言葉を聞く人々に墮落した人類のために払われた犠牲を指し示した。……

こうして、真理の擁護者は嘆願する。不忠実な者の中で忠実に、不誠実な者の中で誠実に、彼は、神の代表者として立ち、彼の声は天からの声のようである。……言葉にも表情にも、恐れも、悲しみも、失望もない。……彼の言葉は、戦闘の怒声を超越した勝利の叫びのようである。(サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 12 月 5 日)

この信仰の英雄に自分自身のために語らせなさい。彼は「わたしはキリストのためならば、弱さ、非難、貧困、迫害、苦境とに甘んじよう。」と言う。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884 年 5 月 20 日)

ヨセフ

「そこでパロは家来たちに言った、『われわれは神の霊をもつこのような人を、ほかに見いだし得ようか』。 またパロはヨセフに言った、『神がこれを皆あなたに示された。あなたのようにさとい賢い者はない。あなたはわたしの家を治めてください。わたしの民はみなあなたの言葉に従うでしょう。わたしはただ王の位でだけあなたにまさる』。」（創世記 41:38 ～ 40）

ヨセフは獄屋からエジプト全国のかさにと高められた。それは、高い名誉ある地位ではあるが困難と危険とが伴うものであった。人間は、高い頂に立てば必ず危険に会うものである。嵐は谷間の低いところに咲く花をそこなうことはないとしても、山頂にある大木を根こぎにすることがある。同様に、平凡な生活のときには廉潔を保って来た人も、世的成功と名誉に伴って誘惑に敗れて深い穴に落ちこむことがある。しかし、ヨセフの品性は、繁栄のときと逆境のときの両方の試練に耐えた。牢獄の中においてあらわされた神への忠誠は、パロの王宮に立ったときにもあらわされた。彼はこのときでさえも異教の地の他国人であり、真の神を礼拝する親族から遠く離れていた。しかし、彼は神のみ手が自分の歩む道を指示したことを心から信じ、神に常に信頼しつつ忠実に与えられた義務を果たしたのである。ヨセフを通して、王やエジプトの高官たちの注目は、真の神に向けられた。彼らは偶像礼拝を続けてはいたものの、主なる神の礼拝者の生活と品性にあらわれた原則を尊敬するようになった。

ヨセフはどのようにして堅固な品性を持ち、正しく知恵ある者としての記録を残すことができたのであろうか。彼は幼少の時代から、自分の好みよりも義務を第一にしていた。青年時代の廉潔、単純な信頼、高尚な性質が成人したのちの行動となって実を結んだ。……最も低いところから、最も高いところにいたるまで、あらゆる場所にあつて忠実に義務を果たしたことはすべての能力を最高の奉仕のために発揮する訓練となった。創造主のみこころに従って生きる者は、最も真実で最も高尚な品性を発達させることができる。（人類のあけぼの上巻 244, 245）

最初の殉教者、ステパノ

「こうして、彼らがステパノに石を投げつけている間、ステパノは祈りつづけて言った、『主イエスよ、わたしの霊をお受け下さい』。そして、ひざまずいて、大声で叫んだ、『主よ、どうぞ、この罪を彼らに負わせないで下さい』。こう言って、彼は眠りについた。」(使徒行伝 7:59, 60)

神に愛された人、そしてキリストに魂を勝ち取るために労していたステパノは、十字架につけられ、よみがえられた救い主の勝利の証を彼が担ったために命を失った。……真理の敵は神の御子に対して表した憎しみを、このお方に従う者たちに対するその憎しみのうちにあらわにした。彼らは、自分たちが十字架につけたお方のことを聞くに堪えなかった。だから、ステパノがこれほどまではばかることなく担った証が彼らを怒りで満たした。……

彼らがステパノの顔に認めた光のうちに、当局の人々には神からの証拠があった。しかし、彼らはその証拠をさげすんだ。ああ、もし彼らが注意を払ったなら！ああ、彼らが悔い改めたなら！しかし、彼らはそうしなかった。(原稿 11, 1900 年)

ステパノがキリストのために苦しむよう召されたとき、彼は揺るがなかった。彼は、自分を迫害する者たちの表情のうちに自分の運命を読み取ったが、彼は、自分が人に伝えるべき最後のメッセージを彼らに与えることに躊躇しなかった。彼は見上げて言った。「ああ、天が開けて、人の子が神の右に立っておいになるのが見える」。全天がこの事件に注意を払っていた。イエスは、ご自分の御父の御座から立ち上がり、前にかがんで、ご自分の僕の顔をご覧になっていた。そして、彼の表情にご自身の栄光の光線を分け与えておられた。人々は、ステパノの顔があたかも御使の顔のように明るく輝いたのを見て驚いた。神の栄光が彼に輝き、そして、彼が自分の主のみ顔を眺めている間に、キリストの敵たちは、彼を石で撃ち殺したのであった。わたしたちは、これが恐ろしい死に方だとは思わないだろうか？。しかし、死の恐れは過ぎ去っていた。そして、彼の最後の息は自分を迫害する者たちを許してくださるようにと主に嘆願することに費やされたのである。

イエスは、ご自分の子らにとってそれをできる限りたやすくしてくださった。そして、このお方はわたしたちにご自分のみ足の跡に従うようにと望んでおられる。なぜなら、もしわたしたちがそうするなら、わたしたちは、キリストとこのお方の栄光に預かる者となるからである。(ビュー・アンド・ヘルド 1890 年 4 月 29 日)

三人の立派なヘブル人

「もしそんなことになれば、わたしたちの仕えている神は、その火の燃える炉から、わたしたちを救い出すことができます。また王よ、あなたの手から、わたしたちを救い出されます。たといそうでなくても、王よ、ご承知ください。わたしたちはあなたの神々に仕えず、またあなたの立てた金の像を拝みません。」(ダニエル 3:17, 18)

ネブカデネザルが王国のすべての役人たちを巨大な像の献納式に集め、そして、音楽が鳴ったときには、それにひざまずいて拝むようにと宣言したとき、これらの青年たちに、……厳しい試みが訪れた。だれでも、そうしない者は、ただちに燃える炉の中に投げ込まれるのであった。この像の礼拝は、ヘブルの青年たちを自分たちの偶像礼拝に参加させるために、バビロンの博士たちによってもくろまれたのであった。彼らは、すばらしい歌い手であったので、カルデヤ人たちは、彼らが彼らの神を忘れて、バビロンの偶像の礼拝を受け入れるようにと望んでいた。

定められた日が来て、楽器の音がすると、王の命令によって参集した大群衆は、「みな、ひれ伏して、……金の像を拝んだ」。しかし、これらの忠実な若者たちは、ひれ伏さなかった。……

そこで、王は、それまで熱せられていたよりもさらに七倍炉を熱くするように命じた。そして、熱くなったところで、三人のヘブル人は投げ入れられた。あまりにも火炎が激しかったので、ヘブル人を投げ入れた者たちは焼かれて死んでしまった。

突然、王の顔が恐怖で青ざめた。……彼の声は、興奮して震えていた。専制君主は叫んでいった。「わたしの見るのに四人の者がなわめなしに、火の中を歩いているが、なんの害をも受けていない。その第四の者の様子は神の子のようだ。」(ユース・インストラクター 1908 年 4 月 7 日)

各時代にわたって、信仰の英雄たちは、彼らの神に対する忠誠が顕著であった。そして、彼らの光が闇の中にいる者たちに輝くようにと、彼らは世の前に目立つように連れて来られるのであった。ダニエルと彼の三人の友人たちは、クリスチャンの英雄的行為の傑出した例である。……バビロンの宮廷における彼らの経験から、わたしたちは心に完全な決意をもってご自分に仕える者たちのために神が何をなさるかを学ぶことができる。(ユース・インストラクター 1907 年 10 月 29 日)

今日の青年

「目をさましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい。」(コリント第一 16:13)

キリストはご自分の弟子たちに、彼らはこの世においては悩みがあると仰せになった。彼らはこのお方のために王や為政者たちの前に連れ出されるのであった。悪の限りをつくして偽りが彼らに対して語られ、彼らの命を滅ぼす者たちは、自分たちが神に仕えていると思うようになるのであった。そして、各時代において、信心深い生活を送った者たちは、何らかの形で迫害に苦しんできた。……彼らはあらゆる侮蔑、暴行、またサタンが人の思いに働きかけて考えつく限りの残酷さに苦しんできた。

世は、これまでもそうであったように、今日、本物の宗教に対して反対している。……

迫害の精神は、……世に譲歩せず、その意見、好意、あるいは反対によって揺れ動かされることのない忠実な者たちに敵対して立ち上がる。神聖の方を選んで、誇、利己心、貪欲、流行を追う罪を譴責する生きた証を担う宗教は、世と表面的なクリスチャンたちに憎まれる。であるから、親愛なる青年の友人がたよ、世があなたを憎んだとしてもあやしんではならない。なぜなら、彼らはあなたより先に、あなたの主人であるお方を憎んだからである。あなたが非難や迫害にあうとき、あなたは素晴らしい仲間のうちにいるのである。なぜなら、イエスはそれらすべてに、そしてそれよりはるかに多くを耐えられたからである。もしあなたが神のための忠実な歩哨であれば、これらのことはあなたに対する賛辞である。自分が一人で立たなければならないときに真実で、朽ちることのない冠を勝ち取るのは、英雄的な魂である。……

永遠の命の道は、細くて狭い。そして、あなたは多くの困難の中を押し進んでいかななくてはならない。しかし、辛抱強い努力によって、あなたは永遠の命、すなわち将来の不死の嗣業を勝ち取ることができる。そして旅の終わりには、休息、平和、栄光があなたのなしうるすべて努力と犠牲に千倍も報いるのである。(ユース・インストラクター 1884 年 5 月 28 日)

現代の英雄たち

「怒りをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる。」(箴言 16:32)

彼は、人が直面しなければならない最も強い敵である自己を征服した。クリスチャンの内にある高潔さの最高の証拠は、自制である。罵りの嵐のさなかで動かされることなく立つ人は、神の英雄の一人である。……

自分の精神を律することを学んできた人は、わたしたちが日常さらされる侮辱、挫折、いらだちを克服し、自分の精神に憂鬱を投げかけることをやめる。

聖化された理性という王権が、神の恵みに支配されて、人間の生涯において支配権を握るというのが神のご目的である。自分の精神を律する者にこの力がある。(サイン・オブ・タイムズ 1904 年 5 月 25 日)

情欲にふけるよう誘惑されたときに思いの均衡を保つ男女は、神と天使たちの目には、全戦全勝の著名な將軍より高貴である。(グッド・ヘルズ 1880 年 11 月)

青年男女が必要としているのはクリスチャンの英雄的資質である。自分を律する者は城を攻め取る者よりも優れていると、神の御言は宣言する。精神を律するとは、自己を規律の下に置いておくことを意味する。……彼らは自分の生涯に救い主の生涯に見られた完全さを持ち込むよう熱心に努力する必要がある。それは、キリストが来られるときに、彼らが門を通して神の都に入る準備ができていたためである。心の内の神のあふれる愛とご臨在は、自制の力を与え、思いと品性を形成し形造る。生涯におけるキリストの恵みは、道徳的そして霊的力、すなわち青年たちがこの世に残すのではなく、未来の生涯に携えていき、永遠にわたって持ち続けることのできる力を与える水路へとその目的、目標、および能力を向けさせるのである。(ユース・インストラクター 1907 年 11 月 12 日)

世を愛してはならない

「世と世にあるものとを、愛してはいけない。もし、世を愛する者があれば、父の愛は彼のうちにない。すべて世にあるもの、すなわち、肉の欲、目の欲、持ち物の誇は、父から出たものではなく、世から出たものである。」(ヨハネ第一 2:15、16)

この時代に生きている青年たちは、もし彼らが正しい原則を自分たちの行動の規則とするなら厳しい戦いをする。社会の大部分の人たちは、他人がするようにし、世の標準にしたがって自分たちの進路を方向づけることに最高の努力を払っている。中身のないあぶくや価値のない雑草のように、彼らは時流に押し流されている。彼らには個性も道徳的な独立性もない。世の是認が彼らにとっては神の是認や、神が尊重なさる人々の判断よりも価値がある。彼らの唯一の行動の動機と規則は方策である。彼らは真理に価値を認めず、原則によって行動しないので、彼らにいかなる信頼をも置くことはできない。彼らはサタンの誘惑の餌食である。彼らは自分自身を真に尊重しておらず、人生における真の幸福もない。この種類の人々は彼らの弱さと愚かさをあわれまれるべきであって、真に尊敬に値する者になりたいという願いを持っているすべての者は、彼らの例を断固として避けるべきである。しかし、そうする代わりに、彼らの社会はしばしばもてはやされて、ほとんど打ち破ることのできない魅了する力を及ぼしているように見える。

.....

あなたの意見をかたちづくり、自分の仲間を選ぶ際には、理性と神への畏れをあなたの案内としなさい。他人があなたに関して意見を心に抱くことのできる意見に関係なく、この点において、あなたの目的に堅固でありなさい。神のご要求があなたの仲間たちの追い求める道と反対方向へ導くとき、あなたの従う者が多かろうと少なかろうと断固として前進しなさい。神のみ言葉がとがめることは何でも、たとえ全世界がそれを採用し、主張しても拒絶しなさい。……

自分たちの願望がかなえられる限り原則に関係なく時流に押し流され、快楽と自己放縦、より安易な道を選ぶ者、これらの者が偉大な白い御座のまわりに勝利者とともに立つことは決してない。(ユース・インストラクター 1883 年 10 月 10 日)

この墮落した時代における純潔

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」(詩篇 24:3,4)

わたしたちの純潔の保護手段は見張り、祈ることではなければならない。(レビ
ュー・アッド・ハルト 1906 年 2 月 22 日)

わたしたちは、サタンの魔力の中に生きている。敵はキリストの恵みによって防壁に守られていないすべての魂の周囲に不道德の呪文を織り込む。誘惑が来る。しかし、もしわたしたちが敵に対して見張り、自制と純潔の均衡を保っているならば、そそのかす霊は、わたしたちに対して何の影響力もない。誘惑を促すために何もしない者はそれが来るときよく耐えるための力を持っている。(両親、教師、生徒への勧告 257)

もし、彼ら[青年たち]が、故意に危険の中に飛び込んで、自らの身を不必要に誘惑の道に置かなければ、もし彼らが悪影響や不道德な社交を遠ざけているなら、その後、危険な仲間のなかに避けようもなく入れられても、彼らには正しい事のために立ち、原則を守る品性の力があり、自分たちの道徳上の汚れなく神のみ力のうちに出てくる。もし適切に教育された青年が神により頼むなら、彼らの道徳的力は、最も強力なテストに耐える。(同上 85)

神の選民はこの終わりの時代に自分たちの周りに充満している墮落のただなかで汚されずに立っていなければならない。……神の御霊がすべての行動に影響を及ぼしつつ完全な支配権を持つべきである。(健康への勧告 20)

堅固な原則をもって活動的な生涯に入る者は、この墮落した時代の道徳的汚染のただなかにあっても、汚されずに立っている準備ができる。(クリスチャン節制と聖書の衛生 75)

「主よ、あなたのあらわれる時には、だれが立ち得よう。」唯一、手が清く、心のいさぎよい者だけが、このお方の来臨のときに残るのである。……最終的に、罪のない御使たちの社会に加わり、ごく小さな罪のしみさえない雰囲気の中で住むために高められたいと望むなら、純潔を求めなさい。なぜなら、それ以外のものは、神の日の調査のテストに耐え得ることなく、純潔で聖なる天へ受け入れられることはないからである。(同上 130, 131)

真理の道を選ぶ

「わたしは真実の道を選び、あなたのおきてをわたしの前に置きました。主よ、わたしはあなたのあかしに堅く従っています。願わくは、わたしをはずかしめないでください。」(詩篇 119:30, 31)

二つの大原則がある。一つは忠誠の原則で、もう一つは不忠の原則である。わたしたちはみな、より大きなクリスチャンの勇気が必要であるがそれは、神の戒めとイエスの信仰が記された旗印を掲げるためである。……従順な者と不従順な者との間の境界線は、はっきりと明確でなければならない。わたしたちはいついかなる時も、またあらゆる所で、主のみ旨を行なう堅い決心をしなければならない。……

クリスチャンの力は、主に忠実に仕えることによって得られる。若い男女は、キリストと一つになることは、自分たちが到達することのできる最高の名誉であることを悟るべきである。最も厳格な忠誠によって、彼らは道徳的な自立を求めて奮闘すべきである。そして彼らは正しい原則から自分たちをそらせようとするすべての感化力に逆らってこの自立を維持すべきである。人の知力が強いほど、真理に根拠のない主張をするかもしれない、しかし、確かにするであろう。真理と過ちを見分けることができるように天来の目薬をあなたの理解力の目に塗りなさい。それはあなたが真理と誤りを識別できるためである。み言葉を探りなさい。そして、あなたが、「主はこう言われる」を見出したなら、あなたの立場を取りなさい。……

天路歷程の中に、いいなりと呼ばれる品性がある。青年たちよ、この品性を避けなさい。これによって表わされている者はとても扱いやすいが、彼らは風に揺れる葦のようである。彼らには意志の力がない。すべての青年は決断力を培う必要がある。意志が二つにわかれている状態は、わなである。そして、多くの青年にとって破滅となる。堅固でありなさい。さもなければ、あなたはあなたの家、すなわち品性は、砂の土台の上に建てられるままにされる。(レビュー・アソッド・ヘラルド 1899年5月9日)

主の哲学はクリスチャンの生涯の規則である。全存在が天の命を与える原則を吹き込まれなければならない。あまりにも多くの人の時間を費やすせわしく無益なことは、健全で聖化させる聖書の敬神の前で、しかるべき立場に収まるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1906年10月10日)

キリストは原則を堅く守られた

「見よ、わたしはまいります。書の巻に、わたしのためにしるされています。わが神よ、わたしはみこころを行うことを喜びます。」(詩篇 40:7, 8)

キリストの生涯は、普通の子供たちと異なっていた。このお方の道徳的品性の強さとこのお方の堅固さとは、いつもこのお方がご自分の義務の観念に忠実で、正しい原則を厳守するようにと導き、いかなる動機からもそれがどんなに強力であってもこのお方を動かすことはできなかった。金銭も快楽も称賛も非難も、このお方を悪い行為を承諾するように買収したり、おだてたりすることはできなかった。このお方は誘惑に抵抗されるのに強く、悪を見破るのに賢明で、ご自分の信念に忠実であり続けることに堅固であった。

邪悪で無節操な者たちが、おだてて、罪深い放縦の快楽を描写しても、このお方の原則の強さは、サタンのほのめかしに抵抗するのに強かった。その洞察力は培われていたので、このお方は誘惑者の声を聞き分けることができた。このお方はだれかの好意を得るために義務からはずれることがなかった。このお方は人間の称賛のために、あるいは義と真の善の敵である者たちの非難、妬み、憎しみを避けるために、ご自分の原則を売り渡すようなことはなさらないのであった。(ユース・インストラクター 1872 年 4 月)

このお方は、ご自分の原則を曲げることなく、ナザレにおけるご自分の周りの不純な感化力に汚されることなく、その両親や社会に対して、ご自分の義務を果たすことを喜びとされた。(ユース・インストラクター 1873 年 9 月)

キリストは、神の律法の原則への忠誠から外れたことがなかった。このお方は、決してご自分の御父の御旨に反して何事もなさらなかった。(教会への証 8 巻 208)

イエスはわたしたちに全般的な指示をお与えになった後に、わたしたちを横道や危険な道のただなかで、どこへ行けばいいかを推測させるようなお方ではない。このお方は、わたしたちを狭い道へと導かれる。そして、わたしたちがこのお方に従うあいだ、わたしたちの足は滑らない。(サインズ・オブ・タイムズ 1906 年 11 月 7 日)

すべての魂は、毎時キリストとの交わりのうちに生きなければならない。なぜなら、このお方は「わたしから離れては、あなたがたは何一つできない」と仰せになるからである。このお方の原則が、わたしたちの原則とならなければならない。なぜなら、これらの原則は永遠の真理だからであり、義といつくしみと憐れみと愛のうちに宣言されているからである。(手紙 21、1901 年)

神の原則だけが、この世界における唯一の堅固なものなのである。(国と指導者下巻 157)

原則によって生きたダニエル

「そこで総監および総督らは、国事についてダニエルを訴えるべき口実を得ようとしたが、訴えるべきなんの口実も、なんのともがをも見いだすことができなかった。それは彼が忠信な人であって、その身になんのあやまちも、ともが見いだされなかったからである。」(ダニエル 6:4)

ダニエルは、今日の青年たちを襲うことのできる最も厳しい誘惑にさらされた。しかし、彼は幼少時代に受けた宗教的な教訓に忠実であった。彼は原則と傾向の間で揺らぐ者を打倒しようと計画された感化力に囲まれていた。それにもかかわらず、神のみ言葉は彼を品性に欠点のない者として提示する。ダニエルは自分自身の道徳力に信頼しようとしなかった。祈りは彼にとって必要であった。彼は神を自分の力とし、そして彼の前には、あらゆる生活上の業務において絶えず神への畏れがあった。……彼はすべての人と平和に生きようと求めたが、その一方彼は原則が関わる場所ではどこでもそびえる杉のように曲がることがなかった。神への忠誠と衝突しない限り、あらゆることにおいて、彼は、自分の上に立つ権威に敬意を払い、従順であった。……

ダニエルと彼の仲間たちの経験の中に、わたしたちには原則が食欲の放縦への誘惑に対して勝利を取めた例がある。それは、青年たちは宗教の原則を通して食欲の放縦に勝利し、神のご要求に忠実であり続けることができることをわたしたちに示している。……もし、ダニエルとその仲間たちが、バビロン人たちの慣例どおりに食べたり飲んだりすることによって、異教の役人たちと妥協し、その時の抑圧に屈していたとしたら、どうであっただろう。原則から離れるその一回の事例が彼らの正義に関する観念と悪に対する憎悪とを弱めてしまったことであろう。食欲の放縦は、肉体的な活力、知力の明晰さ、霊的力を犠牲にすることを含む。誤った一歩が、おそらくは、彼らの天とのつながりが切れてしまうまで歩を進めるように導く。彼らは誘惑によって一掃されてしまうことになるのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1882 年 9 月 28 日)

原則の人ヨセフ

「どうしてわたしはこの大きな悪をおこなって、神に罪を犯すことができません」。 (創世記 39:9)

ヨセフの温順と忠誠は、侍衛長の心を捕え、ヨセフを奴隷というよりもむしろであると思うようになった。……ところがヨセフの信仰と誠実とが、火のような試練に会うことになった。主人の妻が神の律法を犯すように彼を誘惑した。彼はこれまで、異教国にみなぎっていた腐敗に染まずにいた。しかし、突然、強く、魅惑的に迫ったこの誘惑に、彼はどうしたらよいであろうか。ヨセフは拒絶すればどういう結果になるかをよく知っていた。応じればそれは秘密にされて、寵愛と報賞を受ける。反対にそれを拒めば、汚名を着せられて投獄され、殺されるかも知れなかった。彼の将来の人生のすべてがこの一瞬の決断にかかっていた。原則が勝利するであろうか。ヨセフはそれでもなお神に忠誠を尽くすであろうか。天使たちは、言葉にあらわせない不安をいだいて、この光景をながめた。

ヨセフの答えは、宗教的原則の力を示した。彼は、地上の主人の信頼を裏切ろうとしなかった。そして、結果がどうなろうと、彼は天の主人に忠実であろうと願った。……

ヨセフは、廉潔であつたために苦しみを受けた。彼を誘惑した者は、道にはずれた罪の汚名をヨセフに着せて恨みを晴らし、彼を獄屋に投げ入れた。もしポテバルが妻の訴えをそのとおりに信じたならば、ヘブルの青年の命はなかったことであろう。しかし、ヨセフの生活態度に常にあらわされていた慎みと正直とは、彼の無実を証明していた。しかし、主人の家の評判を傷つけないために、ヨセフは恥辱と束縛を受けることになった。……

しかし、ヨセフの真の品性は、この暗い獄屋の中でも輝いていた。彼は、信仰と忍耐とを堅く守り通した。彼の長年の忠実な奉仕は、ここで不当な報いを受けることになったが、彼は気分を害したり、信頼を失ったりはしなかった。ヨセフは自己の無実を自覚していたから、心は平静であつた。そして、神に自分のことをゆだねていた。(人類のあけぼの上巻 236 ～ 238)

平和のために 犠牲にされてはならない原則

「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな。」(ヨハネ 14:27)

終わりの時まで地上には常に二種類の人々が存在したし、これからも存在する。すなわちイエスを信じる者たちとこのお方を拒む者たちである。しかしながら罪人はどれほど悪く、いまわしく、また墮落していても、このお方を信じる信仰により、このお方のみ言葉を行うことを通して、純潔にされ、清くされる。……キリストを拒み、真理を信じることを拒否する者は、イエスを個人的な救い主として受け入れる者に対して苦々しさに満たされる。しかし、キリストを受け入れる者は、このお方の愛と、自分たちのためのこのお方のへりくだり、苦しみ、死の現われによって溶かされ、和らげられる。……

キリストがご自分の弟子たちにお与えになった平安、またわたしたちが祈り求める平安は、真理から生まれるものであり、分裂によって消滅するような平安ではない。それがなければ、戦争、闘争、嫉妬、ねたみ、憎しみ、紛争がある。しかし、キリストの平安は世が与えることも取り去ることもできない平安である。それは、スパイたちの搜索やキリストの敵たちの最もすさまじい反対のただなかでも耐えうるものであった。……キリストは一瞬も聖なる真理を裏切ることによって平安を買おうとされたことはなかった。平安は原則の妥協によって作り上げることができるものではない。……原則を譲り、真理を妥協することによって、光の子らと闇の子らとを分離する深淵に橋をかけようとすることは、神の子らである者たちの側でなされるゆゆしき間違いである。世と和平を結び、世と親しく交わったりするためにキリストの平安を明け渡すことになる。真理の原則を放棄することによって世と和平を結ぶことは、神の子らが払うにはあまりに高価な犠牲である……であるから、キリストに従う者たちは、真理を決して妥協しないと思い定め、世の好意を受けるために原則の一点すら決して譲ってはならない。キリストの平安を保持しようではないか。(レビュー・アンド・ヘラルド 1894 年 7 月 24 日)

自分の体を服従させる

「すなわち、自分のからだを打ちたたいて服従させるのである。そうしないと、ほかの人に宣べ伝えておきながら、自分は失格者になるかも知れない。」(コリント第一 9:27)

肉体は知脳や精神が品性向上へと発達するための唯一の媒体である。だから魂の敵は肉体の能力をそれぞれ弱らせ、退化させる方向にその誘惑の手をのぼす。彼がこれに成功すれば、全身を悪に服従させることになる。より高い力によって支配されていなければ、わたしたちの生れつきの性質は破壊と死をもたらすに至る傾向があることは確かである。

肉体を服従させなければならない。人のより高い力が支配すべきである。情欲は意志によって統御され、意志は神の支配下になければならない。……

神のご要求を良心に深く理解させなければならない。男女ともに自制の義務、純潔の必要、すべて墮落させる食欲、汚れた習慣から離れる義務があることを自覚しなければならない。あらゆる心身の能力が神のたまものであり、それらをこのお方の奉仕のために最善の状態に保っておくべきであるという事実が、彼らに印象づけられる必要がある。……

先天的あるいは後天的な傾向に対する人間の抵抗は、急流に対する砂の提防のようなものにすぎない。キリストの生命がわたしたちの生涯の活力とならないかぎり、内外から激しく攻めたてる誘惑に抵抗できない。……キリストと一体になることによって人間は自由とされるのである。キリストの意志に従うことは完全な人間の資格を回復することになる。

神に服従するとき、人は罪の束縛から自由になり、人間的な情欲や衝動から救われる。自己に勝利し、その性癖に打ち勝ち、「もろもろの支配と、権威」また「やみの世の主権者」「天上にいる悪の霊」に勝利する者となれるのである。(ミースター・オブ・ヒーリング 100 ～ 102)

神の規則によってわたしは生きる

「わたしをあなたの戒めの道に導いてください。わたしはそれを喜ぶからです。わたしの心をあなたのあかしに傾けさせ、不正な利得に傾けさせないでください。」
(詩篇 119:35、36)

青年期とは、生涯を通じて日ごとに実践することのできる分野の知識を蓄える時期である。青年期とは、良い習慣をつけ、悪い習慣を正し、自制力を身につけて自らのものとし、生活のあらゆる行動を、神のみ旨と自分たちの同胞の幸福に関連づけて取り決めるのに慣れるための時期である。青年期とは、この世と墓の向こうの生涯の収穫を決定する種まきの時代である。幼少期と青年期に形成された習慣、身に付けた嗜好、獲得した自制は男女の将来をほぼ確実に決定する。(両親、教師、生徒への勧告 294, 295)

心に抱いている一つの利己的な思い、なおざりにした一つの義務が、次のために道を備える。わたしたちが一度思いきってしまったことは、再びしやすくなる。沈着、自制、儉約、勤勉、健全で理性的な会話、忍耐と真の礼儀の習慣は、勤勉と自己に対する厳密な見張りなく獲得することはできない。自己を支配し、真の徳を大事にしつつ欠点を征服するより、道徳的に墮落し、悪化する方がずっとたやすい。もしクリスチャンの恵みが、いつもわたしたちの生涯のうちに完成することを望むのなら、たゆまない努力が要求されている。(教会への証 4巻 452)

幼い時から自制の習慣を養わなければならない。われわれは自主的であるべきで、奴隷的であってはならないということを少年少女たちに印象づけてやらなければならない。神はわれわれを、内なる王国の支配者となさったのであって、われわれは、天から授けられた王権を行使すべきである。このような教えを忠実に与えるとき、結果は生徒自身だけにとどまらず、その影響は広く及んで、破滅のふちにたたずんでいる幾千の男女を救うであろう。(教育 242)

わたしはキリストが愛されたように愛する

「互に愛し合うならば、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての者が認めるであろう」。(ヨハネ 13:35)

もしわたしたちが世において真の光になりたいのであれば、わたしたちは、キリストの愛情に満ちた憐れみ深い精神を表わさなければならない。キリストが愛されたように愛するとは、わたしたちが克己を実践しなければならないことを意味する。それは、わたしたちが、いつでもどこでも無我を示さなければならないことを意味する。それは、わたしたちが親切な言葉と快活な顔つきを自分たちの周囲に撒き散らさなければならないことを意味する。これらは与える者に何の代価も要求しないが、貴重な香りを後に残す。それらの善に対する感化力は測り知れない。受ける者にとってばかりでなく、与える者にとってもそれらは祝福である。なぜなら、それは与える人に影響をもたらすからである。本物の愛は、天に起源をもつ貴重な特性であって、他の人に分け与えるのに比例して、香りを増し加える。……

神はご自分の子らが、ご自分に栄光を帰するためには、最も彼らの愛情を必要としている者たちに、それを与えなければならないことを、彼らが記憶しているようにと望んでおられる。わたしたちが接触する人はだれ一人としてなおざりにしてはならない。わたしたちの接する人たちに対して、彼らの地位が何であろうと、それが高かろうと低かろうと、裕福であろうと貧しかろうと、顔つきにも、言葉にも、行いにも、利己心が表わされてはならない。ほんのわずかな人にだけ優しい言葉をかけて、他の人たちには冷淡さと無関心をもって扱う愛は、愛ではなく、利己心である。それは、いかなる方法によっても、魂の益や、神の栄光のためにはならない。わたしたちは、自分たちの愛を一人か二人に制限してはならない。

キリストの義から日光を集め、それらを他人の生活に輝かすことを拒む者たちは、まもなく、一握りの人々に惜しみなく注ぐために利己的にとっておいた天来の恵みの喜ばしく明るい光線を失ってしまう。……自己が、最も助けを必要としている者たちに何も与えずに、えり好みして自分自身に集めるままにさせてはならない。わたしたちの愛は、特別な人たちに限られてしまうべきではない。壺を割って、香りが家中を満たすようにしなさい。(ユース・インストラクター 1900 年 4 月 12 日)

わたしは自分の唇に門守をおく

「主よ、わが口に門守を置いて、わがくちびるの戸を守ってください。」(詩篇 141:3)

言葉を用いる際、老いも若きも、性急で短気な言葉を、それ自体軽く考えて大目に見てしまうというのは、おそらく間違いないであろう。彼らは、「うっかりしたのです。そんなつもりで言ったのではないのですが」と嘆願すれば、十分な言い訳になると考えている。しかし、神のみ言葉は、それらをそのように軽く扱ってははいない。……

人生のわずらいや、心痛、またいらだちの大部分は、制御されていない気質によるものである。一瞬の間に、性急で感情的で不注意な言葉によって、全生涯の悔い改めも取り消すことのできない悪がもたらされることがある。ああ、助けと癒しをもたらすことができたはずの者たちの苛酷で性急な言葉によって痛められた心、疎遠になった友人、難破した生涯!……人は自分自身の力によって自分の精神を律することはできない。しかし、キリストを通して、彼は自制を獲得することができる。(サインズ・オブ・タイムズ 1904 年 5 月 25 日)

変ることのない堅固さと冷静な抑制が、すべての家族の規律に必要である。あなたが意味するところを落着いて語りなさい。よく考えて行動しなさい。そして、あなたの言ったことはたがわず実行しなさい。……決して、眉をひそめてはならない。またあなたの唇から荒い言葉がもれるようなことがあってはならない。神は、ご自分の記録の書にこれらの言葉をすべて記しておられる。(教会への証 3 巻 532)

働きすぎによって、時に自制を失うことがある。しかし、主は、決して性急で複雑な動きを強要なさることはない。多くの者が、恵み深い天父が彼らに課せられなかった重荷を自分の身に集める。このお方が決して彼らに実行させるようにとは計画されなかった義務が互いに荒々しく追い立てる。神はわたしたちがあまりにも多くの重荷を負って過重労働となり、心が弱くなり、脳が弱くなり、すりへり、いらだち、ののしるようなことになる時、わたしたちがこのお方の御名に栄光を帰してはいないのだということを悟るよう望んでおられる。わたしたちは、主がわたしたちに賜る責任だけを負い、このお方に信頼し、こうしてわたしたちの心を純潔で、ここちのよい、同情深いものに保つのである。(サインズ・オブ・タイムズ 1904 年 5 月 25 日)

わたしは食べることに 自制を働かせる

「その君たちが酔うためでなく、力を得るために、適当な時にごちそうを食べる国よ、あなたはさいわいだ。」(伝道の書 10:17)

すべてのことに、節制と規律を守ることには、ふしぎな力がある。優しい静かな性質は人生行路を平らかにするのに役立つが、これを助長するには、節制や規律を守ることが環境や生まれつきの才能よりも力がある。同時に、こうして身につけた自制の能力は、ひとりびとりの人間を待ちうけているきびしい義務や現実と取り組んで、これに成功する上に最も価値のある資格の一つであることがわかる。(教育 244)

わたしたちは、節制の原則が家庭生活のあらゆる詳細にわたって持ち込まれるようにと、強くお勧めする。……自己否定と自制が子どもたちに教えられなければならない。そして、乳児のころから、できる限り首尾一貫して彼らに強化されるべきである。(パシフィック・ヘルス・ジャーナル 1890 年 4 月)

子どもたちは自分自身の道ではなく、自分の両親の意志が自分たちを案内しなければならないことを教えられるべきである。これに関連して最も重要な教訓の一つは、食欲の抑制である。彼らは、規則正しく食し、これらの定まった食事の間には、なにも口に入ってはならないということを学ぶべきである。……

このように育てられた子どもたちは、なんでも食欲の欲するままに、始終好きなように食べている者たちよりはるかに抑制しやすい。彼らは普通、快活で、喜んでおり、そして健康である。もつとも頑固で、感情的で、気まぐれな者でさえも、粘り強くこの食事を守り、また彼らの問題に関しては確固としながらもやさしく取り扱うならば、よく従い、忍耐強く、自制心のある者となってきた。(同上 1890 年 5 月)

王冠をつけた帝王よりも高い運命をになう機会を前にしているわが国の青少年たちは、賢人ソロモンのつぎの言葉に含まれている教訓を深く心に思わなくてはならない。「その君たちが酔うためでなく、力を得るために、適当な時にごちそうを食べる国よ、あなたはさいわいだ。」(教育 245)

わたしは自分の思いを制御する

「それだから、心の腰に帯を締め、身を慎み、イエス・キリストの現れる時に与えられる恵みを、いささかも疑わずに待ち望んでいなさい。」(ペテロ第一 1:13)

わたしたちが、各々自分でなすべき働きは、わたしたちの思いの腰に帯を締め、分別をもって、見張り祈ることである。思いは、断固として、道徳力を強める主題を思うように統御されなければならない。……わたしたちの口の言葉が天に受け入れられ、あなたの仲間の助けとなるものになりたいならば、思想が純潔で、心に瞑想することは清くなければならない。(ビュー・アソド・ハルド 1888年6月12日)

思いは注意深く守られるべきである。その健康的な活力を損なったり、破壊したりするようなものは何一つ入ることを許されるべきではない。しかし、これを防ぐためには、命へと芽吹き、実を稔らせる枝が出てくるような良い種でいっぱいにするべきである。……耕されずに放置されている畑は、すぐにあざみやもつれ合ったぶどうがはびこったものになってしまう。それは土壌をやせさせ、所有者にとって価値のないものとしてしまう。土地は、四方からの風によって吹き寄せられ、運ばれてきた種でいっぱいになる。そして、もしそれが耕されずに放置されているならば、それらが自然に生え出て、何とか存在しようとしている貴重な実をつける植物がすべて、生長を阻止されてしまうのである。もし、畑が耕され、穀物を実らせるように種がまかれるならば、これらの価値のない雑草は絶やされてしまい、繁茂することができない。(同上 1886年11月9日)

神のみ言葉を読むことと祈りの時間とに喜びと幸福を見出す青年たちは、たえず、命の泉から一飲みを得て、清新にされている。彼は、道徳的卓越に到達し、他人が理解することのできない思想の広さを獲得する。神との交わりが、良い思想、高尚な向上心、真理のはっきりとした理解力、そして、行動の気高い目的を促進させる。このようにして自らの魂を神に結びつける者たちは、神にご自分のむすこ娘たちと認められるのである。彼らは絶えず、より高い、さらに高いところへと到達し、主が彼らを世に対する光と知恵の通路となさるまで、神と永遠に対する明白な見解を獲得する。(教会への証 4巻 624)

わたしは家庭においてクリスチャンとなる

「不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。」
(コリント第一 13:5)

家庭における自己規制によって多くのものを得ることができる。……各々ができる限り他の人の生活を快適なものとするようにしなさい。言葉において敬意を培いなさい。一致と愛を保ちなさい。サタンは、家庭において完全に自分を制している者たちに権を取ることができない。(原稿 60、1903 年)

わたしたちは、神の霊をもたなければならない。さもなければ、わたしたちは決して家庭で調和をもつことができない。……わたしたちは、家庭における愛情をいづくことに、注意を払いすぎることはない。なぜなら家庭はもし主の霊がそこに宿るなら天の型だからである。……家族の輪の平和と一致を傷つける傾向のあるものは何でも、制圧されねばならない。親切と愛、優しさと寛容の精神が大事にされる。もしだれかが誤ったなら、他のものはキリストのような寛容を働かせるべきである。(手紙 18 B、1891 年)

やさしさ、寛容、そして愛の精神を表す者は、同じ精神が自分に帰ってくるのを見出す。……もし、キリストが本当に内側に形成されているなら、それは栄光の望みであり、家庭に一致と愛が存在する。妻の心に宿るキリストは夫の心に宿るキリストに同意する。彼らはキリストがご自分を愛する者のために用意に行かれた住まいのために共に努力する。……やさしい愛情がいつも夫と妻の間で、親子の間で、兄弟姉妹の間で大事にされるべきである。……快活でいて、親切に話すことが家族の全員の義務である。(サイン・オブ・タイムズ 1892 年 11 月 14 日)

愛がある家、すなわち、言葉や表情や行いに愛が表現されるところは、天使が臨在をあらわし、栄光からの光線によってその場を神聖なものとすることを喜ぶ場所である。……愛が表情に、ふるまいに見られ、そして声の調子に聞かれるべきである。(教会への証 2 巻 417)

家族のすべての者が働かせる自制は、家庭をパラダイスのようにする。(文書伝道 168)

わたしは心の戸を守る

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである。」(箴言 4:23)

「油断することなく、あなたの心を守れ、命の泉は、これから流れ出るからである」と賢者は勧告している。人はその心に思う通りの人柄になっていく。心は天の恵みによって新たにされるのでなければ、生活の清めを求めても無益である。キリストの恵みとは関係なしに気高く正しい品性を築こうとする者は、くずれる砂の上に家を建てるのである。それは激しい誘惑のあらしが襲ってくると必ず倒れる。「神よ、わたしのために清い心をつくり、わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください」というダビデの祈りが、すべての魂の祈りでなければならない。天来の賜物にあずかる者となったのであるから、わたしたちは「信仰により神のみ力に守られ完全をめざして進むべきである。

しかし誘惑に抵抗するために、わたしたちにもなすべき働きがある。サタンの策略の犠牲になりたくない者は、魂の道をよく守らなければならない。彼らは不純な思いを起こさせるものを読んだり見たり聞いたりしないようにしなければならない。魂の敵がほめかしてくることに何のみさかひもなく思い移ることのないようにしなければならない。……これは熱心な祈りと絶えまない見張りが必要である。聖霊の内住による感化力に助けていただかねばならない。そのときわたしたちの心は上の方へひきつけられ、きよく聖なる事だけを思うように習慣づけられる。神のみことばを熱心に学ばなければならない。「若い人はどうしておのが道を清く保つことができるでしょうか。みことばにしたがって、それを守るよりほかにありません。」「わたしはあなたに向かって罪を犯すことのないように、心のうちにみことばをたくわえました」と詩篇記者は言っている。(青年への使命 282～284)

心を抑制したいと思うなら、そしてまた、むなしいけがれた思いで魂を汚したくないと思うなら、自分の目や耳やすべての感覚器官を厳重に監視しなければならない。ただ神の愛の力によってだけ、この最も望ましい働きをなしとげることができる。(同上 66)

わたしは目の前に卑しい事を置かない

「わたしは目の前に卑しい事を置きません。わたしはそむく者の行いを憎みます。それはわたしに付きまといません。」(詩篇 101:3)

すべての者が五感を守るべきである。さもないと、サタンが彼らに対して勝利を得ることになる。なぜなら、それらは魂への道だからである。(教会への証 3 巻 507)

不純な思想をほめかすようなものを読んだり見たりすることを避けなさい。道徳的力、知的力を培いなさい。(同上 2 巻 410)

娯楽のもっとも危険な場所の中に劇場がある。それは道徳と徳の学校となるとしばしば主張されるが、そうなる代わりにまさに不道徳の温床となっている。悪習慣と罪深い傾向とがこれらの娯楽によって強められ、固められている。低俗な歌、わいせつなしぐさ、表現、そして態度が想像を墮落させ、倫理を低下させる。習慣としてこのような催し物に出席する青年は、原則において墮落してしまう。わが国において、想像力を毒し、宗教的な影響を破壊し、そして、落ち着いた楽しみや生活のまじめな現実に対する興味を劇場の娯楽ほど鈍くするのに力強い感化力をもつものは他にない。

これらの光景への愛は、それを繰り返すたびに有毒な飲み物を飲むとき、それへの欲望が増すように増していく。唯一の安全は映画やサーカス、そしてすべての疑問をもつような娯楽の場所を避けることである。

思いと体の両方に大いに役に立つ様式のレクリエーションがある。啓発されて、識別力のある思いは、罪がないだけでなく、教育上有益な娯楽や気晴らしのためにたくさん方法を見出すのである。……天から栄光が輝き出て、その聖なる御手が幾百万という世界を支えておられる偉大な神は、わたしたちの天父であられる。わたしたちは、このお方を愛するだけでなく、信頼と確信のうちに小さな子どものようにこのお方に信頼しなければならない。そのとき、神はわたしたちをご自分のむすこ娘として受け入れてくださる。そして、わたしたちは、永遠の世界の筆舌に尽くしがたい栄光をすべて継ぐ者となるのである。(同上 4 巻 652、653)

わたしは生きることができるよう、 善を求める

「善を求めよ、悪を求めるな。そうすればあなたがたは生きることができる。またあなたがたが言うように、万軍の神、主はあなたがたと共におられる。」(アモス 5:14)

サタンはあらゆる手段を尽くして、犯罪と墮落的な悪徳を広めようとしている。都市の通りを歩けば、必ず、小説に描かれた犯罪、または劇場で上演される犯罪のはでな広告にぶつかる。思えば罪に慣らされてしまう。心の下劣な人物のたどった道が、今日、雑誌に掲載され、人々の欲望をかきたてるあらゆるものが刺激的な物語の中で示される。人々は墮落的な犯罪について聞いたり、読んだりすることが多いため、かつてはこうした情景を嫌悪して目をそむけた敏感な良心も、感覚がにぶって、こうしたことをむさぼるごとく心に思い浮かべるようになるのである。

今日、この世界で、クリスチャンと称する人々にさえ人気のある娯楽の多くは、あの異邦人たちを陥れたのと同じ運命に至らせるものである。事実、そのなかで、サタンが魂を滅ぼすために活用しないものは、ほとんどない。サタンは、各時代を通じて、演劇によって、情欲を刺激し、悪徳をたたえてきた。サタンは、歌劇の魅惑的表現と心を奪う音楽、ダンス、仮面舞踏会、トランプ遊びなどを用いて、原則の防壁を破り、肉欲にふける道を開くのである。誇りが助長され、欲求がほしいままに満たされるあらゆる快楽の集い、また、神のことを忘れて永遠のことからを見失わせるあらゆるところで、サタンは、魂を彼のくさりでしばりつけている。(人類のあけぼの上巻 73、74)

わたしたちの唯一の安全は、神の恵みによって毎瞬間覆われていることであり、またわたしたちが悪を善と呼び、善を悪と呼ぶことがないように、自分自身の霊的視力を除かないことである。ためらうことなく、また議論することなく、わたしたちは、悪に対して魂の道を開き、守らなければならない。(教会への証 3巻 324)

わたしは耳を天へ合わせる

「また、あなたが右に行き、あるいは左に行く時、そのうしろで「これは道だ、これに歩め」と言う言葉を耳に聞く。」(イザヤ 30:21)

靈感を受けたみ言葉の多くの体験談は、わたしたちに人類家族が神と天の住民たちの特別な関心の対象であることを教えるために与えられている。人は、サタンの誘惑の餌食となるままに放置されることはない。全天は、光を世の住民たちに伝える働きに活発に従事しているが、それは彼らが霊的な導きなく真夜の暗黒に取り残されることがないためである。決してまどろむことも眠ることもなさらない目がイスラエルの陣営を警護しておられる。万の幾万倍、千の幾千倍という御使たちが人の子らの必要のために奉仕している。神によって靈感を受けた声が「これは道だ、これに歩め」と叫んでいる。(原稿 8、1990 年)

わたしたちは、この終わりの時代に急速に増えている悪の多くを見ないようにすることができる。わたしたちは、現存する不正や犯罪の多くについて聞かないようにすることができる。(ノートブック・リーフレット 25 番 3)

想像上のひらめきから子供や青年たちがその活発な頭脳の中に描く未来についての光景は現実的なものである。革命が予言され、法律や克己心の防壁をこわす各種の行動が描写されると多くの者はその話の精神に捕われ、こうした扇情文学者の描写するところよりも、できればもっとひどい犯罪を犯すようになる。このような感化によって社会は乱れてきている。不法の種が広くまかれ、その結果、犯罪が発生しても驚くにあたらない。(ミストリー・オブ・ヒーリング 425)

断固として、「……わたしは、軽薄で罪深い事柄に、わたしの目を閉じます。わたしの耳は主のものなので、わたしは、敵の巧みな論法に耳を貸しません。わたしの声は、いかなる方法によっても、神の御霊の感化力のもとにない意志に屈することはありません。わたしの体は聖霊の宮なので、わたしの全能力は価値ある仕事のためにささげます」と言いなさい。(教会への証 7 巻 64)

わたしは良い書物を愛する

「わたしがそちらに行く時まで、聖書を朗読することと、勧めをすることと、教えることとに心を用いなさい。」(テモテ第一 4:13)

神はご自分の民のために選び抜かれた読み物を与えてこられた。神のみ言葉が家の各部屋に置かれているようにしなさい。命の糧である聖書を目にはつきりと見えるようにしておきなさい。雑誌に費やされる金銭を、現代の真理の記された印刷物を買うために用い、それらを家庭の目立つところにおきなさい。まったく安心してこれら子供と青年たちの前におくことができる。キリストを信じる者たちの家庭に小説があってはならない。木、草、わらとして表されているようなものを青年たちの前においてはならない。なぜなら、それは金、銀、宝石にたとえられているものに対する欲求を抱かせるからである。軽率で、価値のない読み物に向かう傾向は厳しく否定されねばならない。

選び抜かれた、人を高尚にする書物をいつも家族の者の前におきなさい。わたしたちの本や出版物を読み、それらを研究しなさい。その中にある真理に親しみなさい。あなたがこうするとき、あなたは、聖霊の感化を感じる。生涯の一瞬一瞬が貴重であるから、それらは将来の不死の生涯に備えるために用いられるべきである。人を高め、高尚にする神のみ言葉の主題を思いに蓄えなさい。それは、あなたが自分の感化のもとに来る人たちに折にかなった言葉を語る準備ができるためである。わたしたちの出版物の読み物は、精神の消化不良を引き起こすことはない。わたしたちのうちだれ一人として、命の糧を受けて傷つく者はない。かえって、これらの本を読むとき、思いには心を真理に定着させるものが備えられるのである。(原稿 53、1911 年)

わたしたちは、もっとも厳粛な義務のために、自らを準備しなければならない。世界は救われるべきである。……なされるべき大きな仕事を視野に入れるとき、だれが、貴重な時間と神が賜った資金とを、自分の最善とならないものや、神の栄光のためにならないようなことをするために無駄に使うことができるであろうか。(ユース・インストラクター 1906 年 8 月 14 日)

わたしはいつも心に歌をたずさえる

「御霊に満たされて、詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。」(エペソ 5:18,19)

神は、ご自分への愛と献身に満たされた純潔な心からの賛美の歌によって栄光をお受けになる。……彼ら〔クリスチャンたち〕が感じる感謝の念と彼らのうちを治める神の平安とが、彼らの心のうちに、主への讃美をかなでさせるのである。そして、言葉によって、自分たちを深く愛され、永遠の命を得るようにと死んでくださった親愛なる救い主への愛の恩義と当然な感謝とを表すのである。(教会への証 1 巻 509、510)

聖書に記録されている歌の歴史は、歌や音楽がどんなに有用であり、また有益であるかということを示している。音楽はしばしば悪用されて悪い目的に使用され、したがって人の心を誘惑する上に最も力のあるものとなる。しかし音楽が正しく用いられるならば、それはとうとい神の賜物となる。音楽が人の思いを高貴なテーマにたかめ、魂に靈感をあたえ、これを向上させるようにと神は意図されるのである。

イスラエルの国民が荒野の旅にあつて、聖歌の音楽によって道中を励まされたように、今日も、神はご自分の民が人生の旅を楽しくするように命じておられる。神のみ言葉を記憶するには、それを歌にしてくり返すことが何よりも効果的な方法である。このような歌はふしぎな力を持っている。それは、粗野で無教養な性質を和らげる力を持ち、また人の思いを活気づけ、同情心をめざませる力を持ち、行動の一致を促し、勇気を失わせたり努力を弱めたりするような暗い思いや胸さわぎなどを払いのける力をもっている。

歌は霊的な真理を心に印象づけるのに、最も効果的な方法の一つである。押しつぶされて絶望しかかっている魂が、長い間忘れていた子供時代の歌の文句をきいて、ふと神のみ言葉を思い出し、そのために誘惑が力を失い、人生に新しい意義と新しい目的が生まれ、勇気と喜びを他人にも分け与えるようになった例がどんなに多いことであろう。(教育 197、198)

わたしは主に向かって歌う

「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる。自分のおこないを慎む者にはわたしは神の救を示す」。(詩篇 50:23)

ありのまま、罪深く、弱く、欠乏している姿のままでイエスの許へ来なさい。そうすれば、このお方はあなたに命の水を与えてくださる。あなたには、サタンがあなたの道をさえぎって投げかけた地獄のような影を突き抜ける信仰が欠乏している。彼は忙しく、娯楽や流行をあみだしている。それは、人間の思いを奪って、瞑想の時間を取ることができないようにするためである。あなたの子どもに自分自身を喜ばせるのではなく、神に栄光を帰することを教えなさい。彼らは神の子どもである――創造と贖いによってこのお方のものである。彼らに娯楽とこの墮落した時代の愚かさにより付かないように教えなさい。彼らの思いを神の御目に清く純潔に保ちなさい。……神をほめ讃えなさい。あなたの会話、音楽、歌がすべてわたしたちのためにこれほどまでにしてくださった方を讃えるようにしなさい。神を現世で讃美しなさい。そうすれば、あなたは、神の都に入ったときに、天の聖歌隊に加わるのにふさわしい者となる。そこで、あなたはあなたの輝く冠をイエスの足元に投げ捨てて、金の立琴を取り、全天を旋律で満たすことができる。わたしたちは、不死の舌をもってこのお方を讃美するのである。(原稿 16、1895 年)

救い主がわれわれを神の栄光の照り輝いている天国の入り口に導かれるとき、み座のまわりにある天の合唱隊のささげる賛美と感謝の調べが聞こえて来るであろう。この天使たちの歌声が地上の家庭に反響するとき、われわれの心は天の歌手たちにひきつけられるであろう。天の交わりは地上から始まる。われわれは、この世にあって、天の賛美の基調を学ぶのである。(教育 198)

主をほめ讃えなさい。このお方のいつくしみを語りなさい。このお方の御力を語りなさい。あなたの魂をとりかむ雰囲気を芳しいものとしなさい。……心と魂と声をもって、あなたの表情の健康であり、あなたの救い主であり、あなたの神であられるお方を讃美しなさい。(ユース・インストラクター 1900 年 12 月 27 日)

神はわたしを精錬するために 試練と悩みを許される

「その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。彼は銀をふきわけて清める者のように座して、レビの子孫を清め、金銀のように彼らを清める。そして彼らは義をもって、ささげ物を主にささげる。」(マラキ 3:2,3)

精錬し、清める過程が神の民の間で進行している。そして、万軍の主はご自分の御手をもってこの働きに携わっておられる。この過程は魂にとって、もっとも苦しいものである。しかし、汚れが取り除かれるためには必要なのである。試練は、わたしたちが、このお方の御旨に屈服することによって、もっと自分たちの天父に近づくようになるために必要不可欠である。これは、わたしたちが義をもって、ささげ物を主にささげることができるためである。……主はますます圧力を増し加えながら、完全な謙遜が思いを満たし、品性を変えられるまで、ご自分の子らを同じ立場に何度も何度も連れてこられる。そのとき、彼らは自己に勝利し、そして、キリストと天の御霊に調和するのである。神の民の精錬は、苦しみなく成し遂げることができない。……このお方はわたしたちを一つの火から次へとくぐらせ、わたしたちの真価を試される。真の恵みは、試されることを喜ぶ。もし、わたしたちが主によって探られることを厭うなら、わたしたちの状態は危険なものである。……

主が人々に彼らの隠れた欠点を表してくださるのは、あわれみのうちにである。このお方は、彼らが自分自身の心の複雑に入り組んだ感情や動機を厳密に吟味し、何が悪いかを見破り、自分たちの気質を直し、自分たちの振る舞いを精錬してほしいと望んでおられる。神はご自分の民に彼ら自身の心を良く知って欲しいと望んでおられる。彼らに自分たちの真の状態がどのようなものかを知らせるために、このお方は苦悩の火が彼らを襲うことを許されるのである。それは、彼らが精錬されるためである。生涯の試練は、わたしたちの品性から不純や弱さ、また荒々しさを取り除き、彼らを栄光のうちにいる純潔な天の御使たちの社会にふさわしい者とするための職人である。……火はわたしたちを焼き尽くしてしまうことはなく、ただ不純物を取り除くだけであるから、わたしたちは、七たびきよめられ、神の印を帯びて出てくる。(ビュー・アズ・ヘルド 1894年4月10日)

神はすべての苦悩に目的を持っておられる

「愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。」(ペテロ第一 4:12,13)

ある夕方、深い苦悩にまったく意気消沈していた紳士が庭を歩いていた。その庭で、彼はほとんど幹から切られたざくろを見つけた。おおいにいぶかりながら、彼は庭師になぜこの木がこのような状態なのかを尋ねた。そのとき彼は、血を流している自分自身の心の傷を十分に説明する返答を得た。庭師は言った、「ご主人様、この木はかつてとても強く伸びていたために、葉ばかりで実をみのらせませんでした。わたしは、このように木を切りざるを得なかったのです。ほとんど切り離してしまうばかりになったとき、実をみのらせるようになりました。」

わたしたちの悲しみは地から生え出るものではない。すべての苦悩に神はわたしたちの益となるようにとのご目的がある。わたしたちの偶像を破壊するすべての打撃、わたしたちの地をつかむ力を弱め、わたしたちの愛情をもっと固く神に固定するすべてのみ摂理は祝福である。剪定は、一時痛みをもたらすかもしれないが、後になって、「平安な義の実を結ばせる」ようになる。わたしたちは、何であつても良心をよみがえらせ、思想を高め、そして生涯を高尚にするものを感謝して受けるべきである。実をみのせない枝は、切り取られて火にくべられる。痛みを伴う剪定によって、わたしたちが生きたぶどうの木につながっていることができることを感謝しようではないか。なぜなら、わたしたちがキリストと共に苦しむなら、わたしたちはこのお方と共に治めるようになるからである。わたしたちの信仰にもっとも厳しい重荷を課し、まるで神がわたしたちを捨ててしまわれたかのように見える試練そのものが、わたしたちをもっと近くこのお方に導くのである。それは、わたしたちが自分たちのすべての重荷をキリストの足もとに下ろし、このお方がその代わりに与えてくださる平安を体験するためである。……神はご自分の被造物のもっとも弱い者を愛し、心にかけてくださっている。であるから、わたしたちを愛するその愛を疑うことほど、このお方を辱めることはない。このお方を暗闇と試練のときにも信頼する生きた信仰を培おうではないか！(レビ・アンド・ハルト 1894 年 4 月 10 日)

神はすべての試練に耐える力を 与えてくださる

「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に会わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(コリント第一 10:13)

キリストは、ご自分が代わって死なれた魂を決してお捨てにならない。人はキリストを離れ、試みに負けることもあろう。しかしキリストは、ご自分のいのちをもってその代償を払われた者からお離れになることはない。もし霊の目が開かれるならば、多くの魂が圧迫され悲嘆にくれて、ちょうど荷車が重い束を積まれて押しつぶされるように、死ぬばかりになっているのを見るであろう。わたしたちは、天使が、危機にひんしている、これらの試みられる者を助けるために、すみやかに飛びかうのを見るであろう。天からのみ使いたちは、これらの魂を取り囲む悪の勢力を押し返し、彼らを導いて、その足を堅い基の上に置くのである。二つの勢力の間に戦われる戦いは、この世の軍隊によって戦われる戦いと同様に現実的であり、この霊的闘争の結果に永遠の運命がかかっている。

わたしたちに対しても、ペテロに対してと同じく、次のことばが語られる。「サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけることを願って許された。しかし、わたしはあなたの信仰がなくならないように、あなたのために祈った」。神が私たちをお見捨てにならなかったことを神に感謝しよう。(祝福の山 148, 149)

わたしたちは、危機のときに近づいている。わたしたちは無限の御力であるお方の御手をつかんで、雄々しくテストに耐えようではないか。神は、わたしたちのために働かれる。わたしたちは、一度に一日を生きるだけである。もしわたしたちが神を知るようになれば、このお方は明日起ることのための力をそのときに与えて下さる。すなわち一日一日十分な恵みを与えてくださるのである。そしてわたしたちはその日に会う試練を見出すのと同様に、その日の勝利を見出す。わたしたちには、いと高きお方の力がある。なぜなら、わたしたちはキリストの義の武具に覆われるからである。わたしたちには過去にご自分の民のために働かれたその同じ神がおられる。イエスは、わたしたちのかたわらに立っておられる。そうであれば、わたしたちはたじろぐのであろうか。――否、試練が来るとき神の力もそれらと共に来る。神は、信仰のうちにご自分のみ言葉の上に立つように助けてくださる。わたしたちが一つになるとき、このお方はわたしたちのために特別な力をもって働いてくださる。(ビュー・アズ・ハルド 1890 年 4 月 29 日)

研究 3

七つの封印と生ける神の印



契約の条件

聖書の中で印は契約に押されるものであることを見てきました。神はご自分の契約を有効にするために、御子の血を流してくださいました。それによってこの血を受け入れる者に契約の条件を守る力が与えられるのです。

では、その契約の条件とは何でしょうか？

十誡が契約の条件である—契約の箱

列王記上 8:9 主が彼らと契約を結ばれたときに、……〔箱〕に納めた；

出エジプト記 19:8 「われわれは主が言われたことを、みな行います」；

出エジプト記 24:3,7 「わたしたちは主の仰せられた言葉を皆、行います」、「わたしたちは主が仰せられたことを皆、従順に行います」；

ヨシュア 24:21, 24 「いいえ、われわれは主に仕えます」、「われわれの神、主に、われわれは仕え、その声に聞きしたがいます」；

ネヘミヤ 9:38 われわれは堅い契約を結んで

はじめから、契約の条件は十誡であり、この十誡の収められた箱は、契約の箱と呼ばれました。では、この十誡とは何でしょうか？

十誡は、関係の律法である

マタイ 22:37-40 あなたの神を愛せよ……、あなたの隣り人を愛せよ。；

ヨハネ 13:34-35 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。；ローマ 13:10 だから、愛は律法を完成するものである

では、契約を守るとは何を意味するのでしょうか？

神と人へのわたしたちの愛の表現は、このお方の戒めを守ること

ヨハネ 14:15, 21 「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである」、「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である」

そして神は、この契約を有効なもの、すなわち条件を守ることのできるものとしてくださったのです。

血は契約を有効にするために必要であった

出エジプト 24:8 契約の血；

マタイ 26:28 わたしの契約の血

契約に印を押して有効なものとなされただけでなく、その条件を守ることのできる保証をも与えてくださいました。

イエスは保証となられた

「キリストは新しい契約の仲保者なのである。……」（ヘブル 9:15）

「イエスは更にすぐれた契約の保証となられた。……」（ヘブル 7:22）

「キリストこそ、わたしたちの唯一の希望、唯一の避け所であることを覚えてください。このお方は、『さらに、わたしたちが罪に死に、義に生きるために、十字架にかかって、わたしたちの罪をご自分の身に負われた。その傷によって、あなたがたは、いやされたのである』（ペテロ第一 2:24）。『もし、やぎや雄牛の血や雌牛の灰が、汚れた人たちの上にまきかけられて、肉体をきよめ聖別するとすれば、永遠の聖霊によって、ご自身を傷なき者として神にささげられたキリストの血は、なおさら、わたしたちの良心をきよめて死んだわざを取り除き、生ける神に仕える者としないうであらうか。それだから、キリストは新しい契約の仲保者なのである。それは、彼が初めの契約のもとで犯した罪過をあがなうために死なれた結果、召された者たちが、約束された永遠の国を受け継ぐためにほかならない』（ヘブル 9:13-15) 』。（ビュー・アンド・ヘラルド 1903 年 3 月 24 日）

ここにわたしたちの希望があります。

前述のとおり、神との契約の条件を破ることは、すなわち神との関係を破ることです。そこで、この関係を守る大切さを教え、モーセを通して契約の条件に伴

う祝福とのろいが詳しく述べられました。

契約：1. 祝福：申命記 28:1-14

2. のろい：申命記 28:15-68 (壊れた関係の結果)

しかし、「彼らは、わたしの言葉を聞くことを拒んだその先祖たちの罪に立ち返り、またほかの神々に従ってそれに仕えた。イスラエルの家とユダの家とは、わたしがその先祖たちと結んだ契約を破った」(エレミヤ 11:10)。

こうして、人は当然の結果として、のろいを受けるものとなりました。しかし、そこから人を救う贖いの計画が一愛の神しかお考えになることのできない方法で一立てられたのです。

人となられた御子イエスは、契約全体を守り、その上で罪びとのためにのろいとなられた、すなわち十字架にかかられたのでした。これは、つまり「また、生きている者である。わたしは死んだことはあるが、見よ、世々限りなく生きている者である。そして、死と黄泉とのかぎを持っている」ことを意味します(黙示録 1:18)。

わたしたちのためにのろいとなられた

「キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった。聖書に、『木にかけられる者は、すべてのろわれる』と書いてある」(ガラテヤ 3:13)。

「もし人が死にあたる罪を犯して殺され、あなたがそれを木の上にかける時は……。木にかけられた者は神にのろわれた者だからである」(申命記 21:22-23)。

「『キリストは、わたしたちのためにのろいとなって、わたしたちを律法ののろいからあがない出して下さった』ということばには深い意味がある(ガラテヤ 3:13)。 」(各時代の希望下巻 257)

そして、わたしたちのためにのろいとなって下さったキリストは、担保、すなわち保証人となりました。担保の唯一の資格は、その身にいかなる負債もないことです(ヘブル 4:15)。

「天使の完全は天で失敗した。人間の完全は祝福のパラダイスであるエデンで失敗した。地でも天でも安全を願う者はみな、神の小羊を見なければならぬ。……わたしたちの唯一の希望は、ご自分によって神の下へ来るすべての人を最高に救うことができになるお方の血を完全に信頼することである。カルバリーの十字架上のキリストの死こそ、この世におけるわたしたちの唯一の希望であり、それは来たるべき世においてわたしたちの主題となるのである。ああ、わたしたちは贖罪の価値を理解していない!もし、理解していたならば、もっとそれについて語るはずである。……」(サィズ・オブ・タイムズ 1889 年 12 月 30 日)

わたしたちのためにのろいとなられるとは何を意味するのでしょうか?このお方が保証となってくださった契約は、どのようにしてわたしたちに成就するのでしょうか?

のろい: いばら、嘲られ、つばきされ、打ちたたかれ、恥辱をうけ…

「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは……苦しんで地から食物を取る。地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ……」(創世記 3:17-18)

「また、いばらで冠を編んでその頭にかぶらせ、……」(マタイ 27:29-30)

「そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、『ユダヤ人の王、ばんざい』と言って敬礼をしはじめた。また……つばきをかけ、ひざまずいて拝んだりした」(マルコ 15:16)。時々悪いやつがイエスの手に持たせてあった葦の棒を引たくり、それでイエスのひたいの上の冠をたたいていばらを頭につきさしたので、血がイエスのお顔とひげをつたわってしたり落ちた」(各時代の希望下巻 245)。

「彼らは残酷にもイエスを鞭うち、イエスに古い紫の王衣を着せて、その聖なる頭にいばらの冠をくくりつけた。彼らはまたイエスの手に葦をもたせ、その前におじぎをしてあざけりながら、『ユダヤ人の王、ばんざい』とあいさつした。それから彼らは、イエスの手から葦をとって、イエスの頭をたたいた。するといばらはイエスの頭につきささり、イエスの顔とあごひげに血がしたたった。

天使たちは、その光景を見るにしのびなかった。彼らはイエスを救いたいと思ったが、指揮者の天使は彼らをとどめて、これは人類のために払われる大きな代償で、死の能力をもっているサタンは、この完全な代償によって滅ぼされるのだと言った。」(初代文集 291)

「悔い改める罪人に、『世の罪を取り除く神の小羊』に目をそそがせなさい(ヨハネ 1:29)。見ることによって彼は変えられる。……悲しみの人で、病を知っておられたイエスが、失われた者を救うために、軽蔑され、侮辱され、嘲笑され、町から町へ追われながら働かれ、ついに使命を達成されたのを見るとき、イエスがゲッセマネで大粒の血の汗を流し、十字架上で苦しみの中に死なれたのを見るとき、一われわれがこうしたことを見るときに、自分をみとめてもらいたいという欲求の叫びは、もはやなくなる。イエスを見上げて、われわれは、自分自身の冷淡さ、無気力、利己心を恥じる。われわれは、主に心から奉仕することができさえすれば、何になってもよいし、あるいは何にもならなくてもよいのである。われわれは、主のためなら、イエスにならって十字架を負い、試練と恥と迫害に耐えることをよろこぶのである」(各時代の希望 439, 440)。

どれほどの無感覚であっても、この方法によって目覚めない者はありません。

- | | |
|-----------------|-------------|
| * 各時代の大学闘上巻 162 | 死んだような眠り… |
| * 各時代の大学闘上巻 328 | 道徳的無感覚… |
| * 各時代の大学闘上巻 328 | 靈的無感覚… |
| * 各時代の大学闘上巻 399 | 靈的昏睡から目ざめて… |

「さて、兵卒たちはイエスを十字架につけてから、その上着をとって……」(ヨハネ 19:23)

イエスはわたしたちのために、これ以上加えることのできない恥辱をすべて受けられたのです。

「ああ、なぜわたしたちはこれほどわずかしき罪の自覚がないのであろうか？なぜこれほどわずかしき罪に対する悔悟がないのであろうか？それはキリストの十字架に近づかないからである。良心は罪の欺瞞によってかたくなにされている。それはわたしたちがキリストから離れているからである。わたしたちの救いの将を考えなさい。このお方は、わたしたちが永遠の恥辱と侮辱を受けることがないように、わたしたちのために恥辱を受けられたのである。……恥辱が哀れな罪人のために、いと高きお方の御子によって負われた。それは彼らが驕われて、永遠の栄光をもって冠されるためである」(ビュー・アノ・バウド 1881 年 8 月 2 日)。

この備えがなされたことを知ったわたしたちはどちらを選ぶでしょうか？

「永遠の生命にいたる者もあり、また恥と、限りなき恥辱をうける者もあるでしょう」(ダニエル 12:2)。

「使徒たちは、御名のために恥を加えられるに足る者とされたことを喜びながら、議会から出てきた」(使徒行伝 5:41)。

キリストはわたしたちにふさわしい取扱いを受けられた

「木にかけられる者は、すべてのろわれる」(ガラテヤ 3:13)。

「しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ」(イザヤ 53:5)。

「当然キリストが受けられるべき取り扱いをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれが当然受けるべき取り扱いを受けられた。われわれのものではなかったキリストの義によってわれわれが義とされるように、キリストはご自分のものではなかったわれわれの罪の宣告を受けられた。キリストのものであるいのちをわれわれが受けられるように、キリストはわれわれのものである死を受けられた。『その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ』(各時代の希望上巻 11)。

「『エリ、エリ、レマ、サバクタニ』と言われた。それは『わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか』という意味である」(マタイ 27:46)。

これは、キリストの受けられるべき取り扱いをわたしたちが受けられるため、すなわちのろいに替えて、「キリストの義」によってわたしたちが義とされるためです。これこそ、神だけが考案し、実行することのできる贖いの計画であり、契約の内容です。

「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と言われたキリストの言葉は、破られた契約が完全に贖われたことを告げていないのでしょうか? 「ああ、わたしたちは贖罪の価値を理解していない! もし、理解していたならば、もっとそれについて語るはずである。……」(サインズ・オブ・タイムズ 1889 年 12 月 30 日)

(50 ページの続き)

わたしがその声(こえ)に聞き従(したが)ってイスラエルを去(さ)らせなければならないのか。わたしは主を知らない。またイスラエルを去らせはしない」(出エジプト 5:2)。

そこで、主はもろもろのおそろしい災(わざわ)いをエジプトの上におくられました。これらの災いの最後(さいご)は、国の王さまから最も身分の低い人にいたるまで、すべての家の長男が殺されるというものでした。

主はモーセに、イスラエルのすべての家族は一頭の羊(こひつじ)を殺し、その血を自分の家のかもいに塗(ぬ)らなければならないとお命じになりました。

それは死の使がすべてのイスラエルの家を「過ぎ越し」ように、そしてほこり高く残酷(ざんこく)なエジプト人以外を滅ぼすことがないようにするためのしるしでした。

この「過ぎ越し(すぎこし)」の血は、ユダヤ人にとってキリストの血をあらかわしていました。なぜなら、時(とき)がくれば、神はご自分のいとしいひとり子をたまわり、小羊(こひつじ)がほふられたようにこのお方もほふられることになっていたからです。それはこうしてこのお方を信じる人がみな、永遠の死から救(すく)われることができるためでした。キリストはわたしたちの「過ぎ越し」と呼ばれています(コリント第一 5:7)。このお方の血によって、信仰(しんこう)を通して、わたしたちはあがなわれるのです(エペソ 1:7)。

このためイスラエルのそれぞれの家族が長男を神の宮へと連れていくとき、彼らはどのように子どもたちが災(わざわ)いから救われたか、また、どのようにすべての人が罪と永遠(えいえん)の死から救われることができるのかをおぼえるのでした。宮で捧げられた子どもは、祭司(さいし)のうでに渡されて、祭壇(さいだん)の前にかかげられました。

このようにそれはおごそかに神さまのみ前に捧げられました。そのあと、母親のうでにかえされ、その名が巻物(まきもの)、つまり書にしるされました。そこには、イスラエルの長子の名がしるされていました。同じように、キリストの血によって救われる人々はみな、その名まえがいのちの書にしるされることになるのです。

グラノラバー

■材料

A	油 (ココナッツオイルなど)	大さじ4
	黒糖	1/3カップ
	ハチミツ	1/4カップ
	ピーナッツバター (好み)	大さじ1/2
B	バニラエッセンス	小さじ1/2
	オートミール	2カップ
	ナッツ類 (アーモンド、ピーナッツ、クルミ)	1/2カップ
	レーズン、またはキャラブチップ	適量

■作り方

1. フライパンに油、黒糖、ハチミツ、ピーナッツバター(A)を入れて火にかけ、溶かします。
2. キャラメル状になって、木べらで分けてもすぐにくっつかない程度になってきたらBを入れます。
3. そのあと、火からおろし、バットにクッキングシートなどをしいてその中に敷き詰める。その上にレーズンかキャラブチップを振りかける。そして少し、ギュッギュッと手で押し付けます。
4. 熱がとれ、固まったらバットから出して、好みの形に切り分けます。

*少しやわらかめにしたい時は、最初のAに寒天パウダーを入れます。お好みの固さにあわせて量を加減してください。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第3話 宮で捧げられるイエスさま(上)

ヨセフとマリヤはユダヤ人でした。そこで国民の習慣に従い、イエスさまがお生まれになって6週間たったときに、エルサレムの宮におられる主のもとへつれて行きました。

これは神さまがイスラエルにお与えになった律法にしたがったもので、イエスさまはすべてのことにおいて従順でなければなりません。そこで、神さまのひとり子なる天の君は、ご自分の模範（もはん）によって、わたしたちがしたがうべきことをお教えるのです。

それぞれの家族に生まれた長子（ちょうし：最初の子）だけがこのように宮で捧げられました。この儀式（ぎしき）は遠いむかしに起こったできごとを覚えているためのものでした。

イスラエルがエジプトで奴隷だったとき、主は彼らを解放するために、モーセをおくられました。主はモーセに、エジプトの王であるパロのところへ行って、次のように言いなさいとお命じになりました。

「主はこう仰（おお）せられる。
イスラエルはわたしの子、わたしの長子である。わたしはあなたに言う。わたしの子を去らせて、わたしに仕（つか）えさせなさい。もし彼を去らせるのを拒（こば）むならば、わたしはあなたの子、あなたの長子を殺（ころ）すであろう」と。（出エジプト 4:22, 23）

モーセはこのメッセージを王に伝えました。しかしパロは次のようにこたえました。「主とはいったい何者（なにもの）か。

